

【事務事業調査】

事務事業名	町子ども会育成会連絡協議会補助			予算科目	会計-款-項-目-事業
				コード	001-100401-002-01-01-0
担当部課	教育部 生涯学習課	担当	社会教育担当	事業の分類	既存事業
		係長	宇塚 利和		

■事務事業の概要

		何をどのような方法で実施します(実施しました)か?	どのような成果が現れます(現れました)か?
計画	H22 事後評価	少子化に伴い地域の子どもを地域全体で育成することが重要になってきています。そのためにも、育成会の体制の強化と単位育成会間の連携を図るため、団体運営費と「リーダー研修会」や「球技大会」等の事業費を補助しました。	近隣の子どもたちが少ないので、リーダー研修会や球技大会などの行事を通じて、子どもの社会性を育てる機会を提供することができます(ました)。また、保護者同士も育成会の中で交流することで、親同士のつながりができます(ました)。
	H24 事前評価	少子化に伴い地域の子どもを地域全体で育成することが重要になってきています。そのためにも、育成会の体制の強化と単位育成会間の連携を図るため、団体運営費と「リーダー研修会」や「球技大会」等の事業費を補助します。	
実績			

■活動指標

指標	目標値	達成値	特記事項
リーダー研修会の開催回数	1回		リーダー研修会 (ツインリンクもてぎキャンプ 1泊2日) 【他の事業】 球技大会 (ドッチボール) 全国子ども会安全会加入推進

■事業費(計画)

【単位:千円】

細節	金額	積算根拠
1 補助金	148	H23年度と同額要求
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
	148	

■事業費(実績)

【単位:円】

細節	金額	特記事項
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
	0	

■事業経費

		計画 【千円】	実績 【円】	特記事項
予算	当初予算額	148		
	補正予算額			
	流用額			
	予算現額			
決算	決算額			
財源	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	受益者負担金			
	その他の特定財源			
	計	0		
	差引(一般財源)	148		

■補助金等名:町子ども会育成会連絡協議会補助

■補助事業者等:町子ども会育成会連絡協議会

★自己評価基準

- (1)とてもよくあてはまる:5点
- (2)あてはまる:4点
- (3)どちらかというにあてはまる:3点
- (4)どちらかというにあてはまらない:1点
- (5)あてはまらない:0点

★総合評価基準

- (1)継続:総得点が35点以上
- (2)見直し:総得点が35点未満

補助金等交付基準		自己評価	評価に関するコメント
1	公益性	■受益が不特定多数の町民に広く及ぶものであり、特定の個人や団体のみが利益を受ける事業でない。	各単位育成会は、町内全域に及んでおり、健全な青少年を育成しようとする地域づくりに貢献しています。
		■町全体に波及効果が期待できる。	
2	必要性	■地域経営計画に即し政策的に奨励する事業であり、町民のニーズに即している。	少子化に伴い、地域の子どもの地域全体で育成することが重要になってきています。こうした観点からも、育成会の体制の強化や単位育成会間の連携を図ることは必要であると判断します。
		■社会動向を展望し、先見性・発展性がある。	
3	公平性	■民間、NPO、ボランティア等、既存団体等の活動を阻害しない。	地域(各単位育成会単位)による団体の連絡協議会なので、他の団体等の活動を阻害することはありません。地域において、青少年の健全育成に取り組むことで、地域が一体となり、明るく健全な社会を形成することに繋がります。
		■町民のサービス受益機会が均等である。	
4	効果性	■事業効果が明確かつ具体的である。	地域リーダーの育成として「リーダー研修会」や「球技大会(ドッジボール大会)」事業は、中高生のジュニアリーダーや地域リーダーを育成しています。こうした町民の主体的な事業が「地域が一体となった青少年の健全育成」に繋がるものと判断します。
		■予算の見積が適正である。	
5	適格性	■実施体制が明確である。	「補助終了後の自主運営」については、団体の期待どおりに行かないという現状にあります。
		■自主・自立の傾向が明白で、将来計画がある。	
合計点数		37	
総合評価		継続	